

ようぶせきちゅうかんきょうさくしょう 腰部脊柱管狭窄症

皆さんは、下肢の痛みやしびれを経験したことがありますか。

下肢の痛みやしびれは種々の疾患から起こる可能性があります。歩いているとだんだん痛みやしびれが強くなるようでしたら、腰部脊柱管狭窄症(ようぶせきちゅうかんきょうさくしょう)の可能性が高いと思われます。

背骨の腰の部分・腰椎(ようつい)の疾患ですが、腰痛よりもむしろ下肢の痛みやしびれが出ることが多いです。

起立や歩行によって下肢症状が強くなり、腰掛けて休むと改善する『間欠跛行(はこう)』という症状が特徴です。



間欠跛行



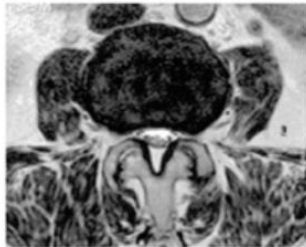
下肢の痛み



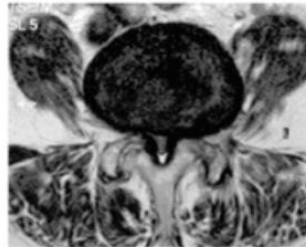
下肢のしびれ

背骨の後方には、脊柱管という管状の構造があり神経を保護しています。

腰椎は脊柱管によって神経を守っていますが、自分の体も支え続けなければならないので、年齢的な変化が進んでくると、軟骨や骨棘(こつきょく)という骨の棘(とげ)のようなものが突出し、神経を圧迫してしまふことがあります。



正常な脊椎



MRI

腰部脊柱管狭窄症



脊髓造影

ロコモティブシンドロームやメタボリックシンドロームの予防には、適度な運動をすることが望ましいのですが、下肢の痛みやしびれがあると運動ができなくなってしまいます。つえや買い物カートなどにつかまると比較的楽に歩けることが多いことから、生活の中での注意であまり支障なく暮らせることもあります。

薬もいろいろあり、従来からある消炎鎮痛薬という痛み止めから、神経の障害による痛みやしびれを改善する痛み止めや慢性疼痛に対するオピオイドという痛み止めもあり、ある程度症状を和らげることもできます。

しかし、下肢の痛みやしびれがあるのにあまり無理をすると神経を傷めることにもなりますので、保存的治療をしても生活に支障がある場合には手術という選択もあります。手術の種類も多種ありますが、腰部脊柱管狭窄症は神経が圧迫されることによる下肢症状が主な症状なので、神経の圧迫を改善する『除圧術』という手術が中心になります。

当院では内視鏡による手術も行っています。

※イラスト及び画像写真は日本整形外科学会 HP より引用

【整形外科診療部長 斯波 俊祐】

